

大成功の竹内農場西洋館竣工100周年記念式典&交流会



2023年10月21日（土）14時～16時30分、コロナで3年延期になっていた竹内農場西洋館竣工100周年記念式典&交流会を開催しました。西洋館のレンガ建築物として文化財的な高い価値を再認識していただくために、竣工100周年を祝うイベントを開き、龍ヶ崎市民をはじめ多くの方々に西洋館の存在と価値を知っていただくとともに施主・竹内明太郎の歩んできた足跡を振り返ることを目的とするものです。

第1部の式典はNPO前田理事長の開会の辞から始まり、来賓として竹内明太郎の曾孫であるセレンディップ・ホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEO竹内在様、コマツ執行役員・粟津工場長保川高司様（司会者代読）、明太郎の郷里である宿毛市出身の学校法人タイケン学園 理事長・日本ウェルネススポーツ大学学長柴岡三千夫様、龍ヶ崎市長萩原勇様（代理）が出席され、祝辞をいただきました。

次に「祝典アンサンブル」の演奏がヴァイオリン伊師裕人氏、クラリネット末次真美氏、バスクラリネット畠山美智子氏の3名で行われました。西洋館の建物が反響した効果により生音で美しいハーモニーが会場に広がりました！

そして見学ガイド「竹内農場西洋館の楽しみ方」が実施され、工学院大学総合研究所客員研究員二村悟氏の解説を通して、分かりやすく西洋館の魅力や価値を多くの方々に伝えることができたのではないかと思います。

司会は一般社団法人松戸市民劇団理事長の石上瑠美子氏による滑らかな進行で、和やかな式典を開くことができました。

第2部は長山コミュニティセンターにて立食形式の交流会が開かれ、参加者それぞれの西洋館への熱い想いを語り合っていました。中でも、竹内在様からの「天国の明太郎もきっと喜んでいると思います！」の一言が心に響きました。

今回、関係者を含めて50名の参加者があり、103年前に竣工した竹内農場西洋館に想いを馳せることができたのではないのでしょうか！龍ヶ崎市に残された大正時代の貴重な文化財を今後、どのように保存修復・活用していくかについて考える取っ掛かりになったと言えると思います。

このイベントは龍ヶ崎市市民活動サポート補助金事業として約30万円の予算で実施され、市から約9割の補助を受けて実施することが出来たことを報告します。ありがとうございました。

稲敷 & 龍ヶ崎市民 赤レンガ交流会

主催 小野川をきれいにする会（稲敷市） & NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会

第1弾「稲敷市の関口家赤レンガ長屋門、旧植竹庄兵衛邸の見学会」

2023年6月10日（土）実施。参加者はスタッフを含め25名。参加者の中には、遠く笠間市や千葉県市川市から来られた熱心な歴史的建造物愛好家の方もおられました。

10時、龍ヶ崎市市民活動センター集合。マイカー6台分乗で江戸崎まで移動。

11時～11時50分 関口家赤レンガ門と蔵を見学。

12時20分～2時 昼食と買い物。

2時～3時30分 登録文化財旧植竹庄兵衛邸（大日苑）ほか見学。

関口家の貴重なフランス積み赤レンガ長屋門と、普段は門が閉ざされていて見学不可の旧植竹庄兵衛邸の隅々まで見学出来て参加者の皆様大満足の1日となりました。

関口家赤レンガ長屋門及び蔵について

1759年（宝暦9）頃、鳩崎村（江戸崎町→現稲敷市）の関口八兵衛が醤油醸造を始めました。その後当主は代々関口八兵衛を名乗り、12代目関口八兵衛は1888年（明治21）為替回漕会社を興し、その後上菱醤油醸造会社を設立しました。醤油のほかにソース（鳩ソース）、ビール（上菱ビール）、茶園経営、レンガ製造など事業拡大。その傍ら『常総雑誌（改進黨系雑誌）』を発刊し政治活動に奔走。そして第1回帝国議会（明治23年）に茨城県6区から出馬当選し衆議院議員を1期務めるなど政財界で活躍しました。

この長屋門と蔵は12代関口八兵衛が醤油醸造所の隣に我が子の新宅として建てたものです。

今後登録文化財になり得ると、期待している歴史的建造物です。

旧植竹庄兵衛邸について

江戸崎入の干拓事業を始めた植竹庄兵衛が戦時下における皇族久邇宮様の寓居を念頭において建築の和洋折衷の豪邸（昭和14年建築）。建築後まもなく久邇宮様の住居となり、終戦までこちらでお過ごされました。宮様御付きの方の住居棟が5棟ほどありましたが、10年ほど前に焼失（一部現存）廃墟となっております。

戦後は料亭「大日苑」として活用されましたが、現在は長期にわたり空家となっております。

第2弾「龍ヶ崎市の竹内農場西洋館、旧諸岡邸赤レンガ門塀、旧小野瀬邸ほか見学会」

2023年7月8日（土）実施。参加者はスタッフを含め15名。移動はマイカーにて。

当NPO法人の案内で次の通り見学。

9:30 女化神社集合。そして女化神社境内、市民遺産親子狐の石像を見学。

9:50 市民遺産竹内農場西洋館を見学。市の許可を得て建物の内部を見学。

10:50 国重要文化財多宝塔を見学。

11:20 登録有形文化財 旧諸岡邸赤レンガ門・塀を見学。

11:50 登録有形文化財旧小野瀬邸及びその界限を見学。

旧小野瀬邸は普段は内部見学は出来ませんが、今回は所有者の菅井氏に相談し、店舗と母屋、二階を見学することが出来ました。

13:00 駅前コムハウスイベント館にてトンカツ弁当による昼食会。参加者は12名。見学会の感想を語り合いながら楽しく食事をしました。

イベントは大きなトラブルもなく、ほぼ予定通り市内見学を行うことが出来ました。遠方から来られた方にも龍ヶ崎の名所を堪能していただいたと思います。

前田



写真上：龍ヶ崎市竹内農場西洋館見学
写真下：稲敷市関口家赤レンガ門見学



龍ヶ崎まちづくり講座

つくば市北条の旧矢中家住宅“矢中の杜”の守り人の活動

2023年11月12日（日）午後1時半から龍ヶ崎市民活動センター2階パソコン室にて、龍ヶ崎市民活動センター、比較住宅都市研究会、NPO龍ヶ崎建物保存会との共催で研究会を開催して、中村泰子氏（NPO法人“矢中の杜”の守り人事務局長）にお話しいただきました。

「私はつくば市北条の南側の地区の生れ。2012年、偶然につくば市北条の「矢中の杜」（旧矢中家住宅）を見学し一目惚れ、保存活用活動に参加する。矢中の杜では、邸宅公開のスタッフや整備作業、また保存修繕工事の企画や工事手配なども協力し、現在は事務局長として運営を担う立場となっている。

つくば市北条は筑波山の南麓にあり、筑波山神社への参詣道（つくば道）の入り口の町。旧矢中家住宅の敷地面積770坪、南北に長く、傾斜地を利用した庭園と建築物を備える。1938年（昭和13）～1953年（昭和28）にかけて建築された近代和風建築。現在の所有者に移転を機に、保存活用活動が始まる。

建築主の矢中龍次郎（明治11年～昭和40年）はつくば市北条出身の建材研究家、実業家、発明家。油脂化工社（現在の株式会社マノール）を創業。この住宅は豪華な邸宅であるだけでなく、氏の研究成果を用いる実験住宅でもある。材料、構造、意匠など随所に矢中氏の意向が反映されており、数々の工夫をしている。

龍次郎の死後約40年間は親類の集まりなどにたまにしか使われなかった旧矢中邸の所有者が変わったことが保存活用活動の契機となる。新たな所有者が、知人を通じて声をかけた学生たちが中心となり、地域の方の協力のもと、2008年に邸宅の調査や清掃を開始。任意団体として保存活用活動が始まる。2010年NPO法人“矢中の杜”の守り人を設立。所有者と賃料が無償の使用貸借契約を結び、当法人が管理を委託され維持管理、修繕等を担う。守り人会員が中心となって管理運営にあっている。2011年国登録有形文化財に登録。主な活動内容は、毎土曜日の邸宅公開・ガイドツアー、邸宅の貸出利用（ロケ含む）、イベントの開催、維持管理・整備・修繕工事（これまでの修繕費総額は約2,500万円）、北条まちづくり振興会など他団体と相互協力、地元筑波高校など教育機関への協力。

邸宅を動的に（生きた状態で）保存していくことが私たちの活動の基本姿勢。動的保存は、現在の活動が始まった頃に話し合われた、保存と活用を一体と考え「古いものと新しいものの共存」を実現していくための指針。使ってこそ、活用してこそその保存、と考える一方で、邸宅の消耗とのせめぎ合いもある。保存活用活動はつづけることが第一。活動をつづけるために、無理をしない。記録を残す。年報を発行。

邸宅公開の見学は500円の有料で「邸宅維持修繕協力金」と名付けている。日常的な維持管理・整備、基本の整備の第1歩は、日常的な「掃除」。いつもの掃除で変化や不具合を見つける。調査活動、邸宅の理解の基本は現代表の修士論文、ガイドはそれを元にするが、聞き取り、調査等で知識を更新する。守り人たちの楽しみ。

会員は当初の学生中心から社会人中心の構成に変化。現在は再び学生の参加も増えてきた。2023年11月現在会員数58名（うち学生は7名）。会員の年齢構成は、20代以下、30代で27%、40代26%、50代20%、60代以上27%。

約770坪の敷地に傾斜地を利用した庭は、草取りをするだけでも大変な労力が必要。庭倶楽部を2019年発足、庭園をメインとしてゆるやかに集まるサークル活動のような集まりで、草刈り、伐採剪定、石積み、植栽など。参加しやすい。

2023年6月の国の文化審議会の答申を受け、国の重要文化財に指定されることになり、9月官報告示。今後は修繕・耐震補強より詳細な保存への取り組みが必要となっている。」

参加者は龍ヶ崎市民など20名あまりで2時間ほど報告と質疑討論が行われました。つくば市にはNPOに無償で建物を貸し出している場合、固定資産税が無償となる制度があり、これを活用して所有者の経済的負担が軽減されているなど参考になる点が多かったです。

海老塚



歩く歴史講座「旧小貝川の史跡巡り～道仙田、高須町」開催

主催：龍ヶ崎市市民活動センター、共催：龍ヶ崎市教育委員会、NPO龍ヶ崎建物保存会

2023年10月7日（土）好天に恵まれまち歩きイベントを開催することが出来ました。一般参加者21名、スタッフ7名、計28名。

9時15分総合社会福祉センター駐車場集合

約4キロを、次の見学場所を巡りながら歩きました。

英美子詩碑→小貝川→S56決壊口の碑→熊野神社→水塚→ふるさとふれあい公園（トイレ休憩）→八坂神社（長沖新田鎮守）→稲荷神社（川原代道仙田坪鎮守）→道仙田河岸跡→総合福祉センター駐車場。

堤防がなく、日本の原風景を彷彿する旧小貝川。その旧小貝川のかつて存在したであろう土手を探りながら歩いてみました。必然的に草むらが多く、途中スズメバチに襲われるというトラブルがありましたが、この危機を無事すり抜けることが出来ました。

今回のコースは4か月間現地調査し、いろいろと模索しながら決めたコースだったので、不安いっぱいでしたが、潤沢に開催され、皆様に大変喜んでいただきました。

前田



まちづくりつなぐネットによるコミセンウォーキング「駒馬城跡周辺散策」開催

主催八原まちづくり協議会、協力NPO龍ヶ崎建物保存会

1月18日（木）ウォーキング日和に恵まれ開催することが出来ました。

参加者はスタッフを含め24名。コースは市民活動センター→日枝神社→弘法太子堂→常光院→大鷲神社跡→重要文化財多宝塔→お浜→駒馬城跡→歴史民俗資料館→4号機関車→澤ゆき詩碑→市民活動センター

以上、約3キロの道程を2時間30分かけて歩きました。

歴史民俗資料館は学芸員の油原さんに20分程度解説していただきました。

前田



龍ヶ崎市SDGsパートナー 認定証



NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会 様
貴団体を、SDGsの理念に基づき、持続可能な地域及び社会づくりに取り組むパートナーとして認定いたします



龍ヶ崎市 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

龍ヶ崎市SDGsパートナーに登録

龍ヶ崎市が推進するSDGsの理念に基づく持続可能な地域及び社会づくりに協力するため、当NPO法人は次の取り組みと目的でSDGsパートナーに申請し、昨年の12月28日登録することが出来ました。

取り組みについて

- 竹内農場西洋館や筑波庵、旧小野瀬邸など歴史的建造物の保存推進と活用を行っています。
- まちづくり・つなぐネットや市民活動センターと提携し、文化財や史跡巡りを主とした街歩きを行い、歴史によるまちづくりを推進しています。

目標とするゴール（SDGsの掲げる16の目標より）

- ⑪ 住み続けられるまちづくり
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑮ 陸の豊かさを守ろう

<https://tatemono-hozon.net/>

NPO建物保存会

